

サロンのあべの

ニ新第 No.3
発行日 昭和61年9月11日
発行者 くサロンあべの 運営委員会

ボランティアグループとしての へサロンあべの

地域の障害者と健常者の接点と、様々な角度から企画して、多くの方々との出会いを作り、障害者と健常者の相互理解を深めると共に、お互いに助けあえる仲間作りをしていきたいと考えています。また、いろいろな情報の交換や提供を行ない、より広く多くのオタのへサロンあべのへの参加を勧めていきたいと考えています。

岡氏・前田さんの

歓迎迎会

八月二十四日(日)十二時からアベノセンタービル九階にあるバイキング料理の「コンコルド」にて あべのボランティア・ビューローの岡知史氏の送別会と、氏の後任として九月からコーディネーターとされる前田博子さんの歓迎会が南かれました。

お忙しいにもかかわらず、あべのボランティア・ビューローのボランティアの方々、サロンあべののメンバー、合わせて十六人と(頭(ケリヤ)が出席。大島氏の挨拶、水谷さんの乾杯の音頭で始った宴は、時間とともに華やかなりしは、暑さも忘れて、大いに盛り上げました。

席上、岡氏には、出席者一同から心ばかりの記念品(図書券)と寄せ書きの色紙が贈られました。岡氏、前田さん

両人のそれぞれの直ぐの活躍を祈念しつつ、二時過ぎに散会しました。なお、岡氏は専門分野の研究と執筆活動とされると同時に後進の指導に教壇にも立たれる。一年余にわたって、いろいろ奮力してこられたあべのボランティア・ビューローには、今度はボランティアとして、関わって行かれます予定。

PROFILE

あべのボランティア・ビューロー
前田博子さん

自分の廻りに、全く、心身障害児者がいなかったのが、動機で社会福祉の道へ。大阪府立大学在学中の部活も福祉一色。テキストを買って自分で三日間、一心不乱、脇目も振らずに読書をマスターして、ヤンタゼーとサイン。ところがどっこい、独学がアダして、読む方を憶えて書けはサカサマ。皆から「ダサー」と笑われる。敵を長崎で取ったわけではないが、手話はサカサマにはならず、学業とともに今年三月に卒業。

「福祉マイレ」と、鉦太鼓で探し、ヤツと、マ、かつ、た社協が、京都のハズレノ、高野山の麓から通える道理はなく、親御さんに箱から出してもうえず、正職員の産を棒に振って、アルバイトで大阪市社協とあべのボランティア・ビューローへ。福祉に絶大なファイトを燃やすハ重歯のカワユイおじょうさん。



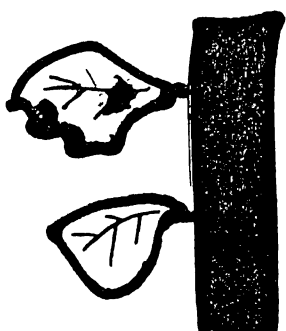
九月の
出かい

「サロンあべの」では、左記の内容で、九月の出会いを持ちたいと思えます。現在、ボランティア活動をされている方、ボランティアに関心をお持ちの方、そしてボランティアにお世話になっていらっしゃる方にご参加頂いて、活動内容や今後の抱負などを話し合っ、その中からコミュニケーションって何かを見つけたらいいと思います。

記

日時 昭和61年9月10日(土) 一時〜四時
場所 育徳コミュニティセンター二階研修室
内容 「コミュニケーションとボランティア」
(手話通訳有)

編佳木必後記



本紙の編集の依頼をされ、及ばずながら「To the beam」とエエカツコしたものの二十数年前に取った杵柄では、素人も同然、ご賢の通りの紙面と相なりました。号を違って恥しくないものにしていきたいと思っておりますが、皆様方のご協力と叱咤なしでは果し得ぬ重責でございます。何とぞよろしくお願いたします。

本紙も三号、へサロンあべののコミニティ紙にふさわしい「名刺」を付けて下さい。